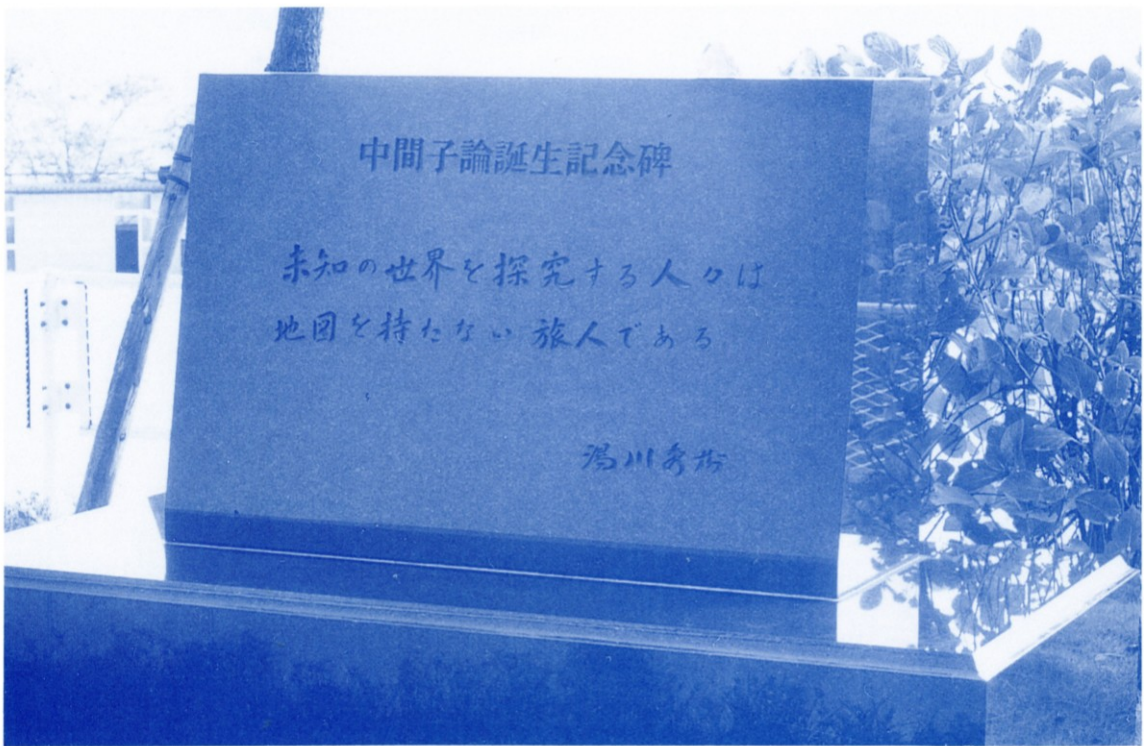


第3回 西宮湯川記念賞贈呈式

# 西宮湯川記念講演会



昭和63年11月12日

午後1時30分～4時

夙川公民館 ホール

主催／西宮湯川記念事業運営委員会・西宮市・西宮市教育委員会

---

## 受賞者・講師のプロフィール

---



やなぎ だ つとむ  
受賞者 柳 田 勉

昭和24年2月9日生れ  
昭和39年3月 西宮市立上甲子園中学校卒業  
昭和42年3月 兵庫県立鳴尾高等学校卒業  
昭和47年3月 静岡大学理学部卒業  
昭和52年3月 広島大学大学院博士課程を修了、理学博士の学位取得  
昭和52年4月 日本学術振興会奨励研究員  
昭和54年4月 東北大学理学部教務員  
昭和54年10月 東北大学教養部助手  
昭和61年10月 東北大学理学部助教授  
この間昭和56～58年 西ドイツ ミュンヘン工科大学 MAX PLANCK研究所客員研究員  
昭和61年1～10月 西ドイツ DESY研究所客員研究員

### 受賞研究 「ニュートリノ質量と統一理論」

受賞理由 1979年柳田氏は、素粒子の統一理論におけるニュートリノの微小質量を、「シー・ソー」機構という考えで説明した。これが素粒子および宇宙物理学に与えたインパクトは非常に大きく、その業績は国際的にも高く評価できる。



ほっ た よし き  
講 師 堀 田 凱 樹

昭和13年9月20日生れ  
昭和38年3月 東京大学医学部医学科卒業  
昭和43年3月 東京大学医学系大学院博士課程修了(医学博士)  
昭和43年4月～47年3月 カリフォルニア工科大学生物部門研究生  
昭和43年10月 東京大学医学部助手  
昭和47年4月 東京大学理学部講師  
昭和48年4月 同 助教授  
昭和61年1月 同 教授

最近の分子遺伝学の進歩によって、複雑で神秘的な動物の身体が組み立てられて行く仕組みが分子という単純なものの研究で明らかになりつつある。

今回の講演では、生物の神経系や脳の発生などの遺伝子とその突然変異の解析について特に研究の進んでいるショウジョウバエを例にとり分りやすく解説し、動物の創造の世界にふれたい。

## 西宮湯川記念事業

湯川秀樹博士が、日本人として初めてノーベル賞をお受けになられた「中間子論」を発見されたのは、苦楽園にお住まいの時でした。

それから50年を経た昭和60年に博士の門下生の方々が中心となって、「中間子論誕生記念碑」を苦楽園小学校校庭に建立されました。その碑文には、博士の著書「旅人」から「未知の世界を探求する人は、地図を持たない旅人である」という言葉が、刻まれています。

西宮市では、これを契機に中間子論が本市で誕生したことを42万市民をはじめ内外に広く知っていただくとともに、文教都市西宮の誇りとしたいと考え、昭和61年から「西宮湯川記念事業」を発足しました。

この事業は、市民の方々に理論物理学を平易に解説し、基礎科学に対する正しい認識と学生、生徒の科学する心を養うための「西宮湯川記念講演会」と、次の理論物理学を担われる若手研究者の研究奨励を目的に、顕著な業績を修められた方に贈呈する「西宮湯川記念賞」、研究者による研究発表と討論のための「西宮湯川記念理論物理学シンポジウム」で構成されています。

この事業を通じて湯川博士の「真理を探求する心」と「平和への願い」が一層市民生活と教育実践の中に強く継承されることを念願しております。

### 湯川秀樹博士略年譜

明治40年（1907）		父琢治、母小雪の三男として東京麻布に生れる(1月23日)
昭和 4年（1929）	22歳	京都帝国大学理学部卒業
昭和 8年（1933）	26歳	苦楽園の新居に居住
昭和 9年（1934）	27歳	中間子を予言。日本数学物理学会で講演、論文「素粒子の相互作用Ⅰ」（中間子論第Ⅰ論文）を投稿
昭和10年（1935）	28歳	同論文を日本数学物理学会欧文誌に掲載
昭和14年（1939）	32歳	京都大学教授となる
昭和15年（1940）	33歳	甲子園口に転居
昭和18年（1943）	36歳	京都に転居
昭和24年（1949）	42歳	核力に関する中間子理論によりノーベル物理学賞を受ける
昭和30年（1955）	48歳	ラッセル・アインシュタイン宣言の共同署名者となる。 下中弥三郎氏・茅誠司氏らと世界平和アピール七人委員会を結成
昭和56年（1981）	74歳	京都下鴨の自宅で永眠（9月8日）